

|           |  |
|-----------|--|
| 学校目標・経営方針 | 「自主自立」、「進取研鑽」の校是の下、幸福な人生を送るために必要な資質・能力を身につける生徒の育成を目指す。   |
| 本年度の重点目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>主体的・対話的で深い学びによる学力向上の推進</li> <li>規範と相談による生徒指導体制の確立</li> <li>幸福追求を目的とするキャリア教育の推進</li> <li>体育・文化活動による健康・安全教育の充実</li> </ul> |
| 達成度       | <ul style="list-style-type: none"> <li>A ほぼ達成できた。(8割以上)</li> <li>B 概ね達成できた。(6割以上)</li> <li>C 不十分である。(4割以上)</li> <li>D 達成できなかった。(4割以下)</li> </ul>               |

|   |
|---|
| 山梨県立白根高等学校 校長 伊藤 裕之   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>4 良くできている。</li> <li>3 できている。</li> <li>2 あまりできていない。</li> <li>1 できていない。</li> </ul> |

| 本年度の重点目標 |                        |  | 年度末評価(令和6年2月1日現在)   |   |   |
|----------|------------------------|--|---|---|---|
| 番号       | 評価項目                   | 具体的方策  | 自己評価結果  | 達成度   |   |
| 1        | 主体的・対話的で深い学びによる学力向上の推進 | <ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活の中で、グループワーク等を取り入れ、生徒が中心となる授業や活動を展開する。生徒が主体的に取り組める授業展開を行う。</li> <li>授業が学びの始まりになるように、基礎基本を徹底した学習の支援を行う。Classi等を活用した家庭学習を推進させる。</li> <li>地域やグローバルな課題に挑戦させ、学び合い等を通して理解を深めさせる。</li> <li>ホームルーム活動や授業の中で発言する機会を設けたり、グループワークを取り入れる。</li> <li>授業の中でPC等のICT機器を活用し生徒理解を深める。またClassi等を活用し、小テストやアンケートを効果的に実施する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校改善アンケートで教職員、生徒ともに学習習慣の定着が課題とした回答が目立つ。学習習慣の定着を図るClassiの機能等が十分に活用されているとは言いがたい。スタディ・サポートの分析でも家庭学習時間が全国平均を下回る結果となった。総合的な探究の時間において山梨大学と連携して行った探究活動では、学びへの意欲を喚起した実践となった。</li> <li>・本年度1学年に導入されたBYODの活用も含めて、ICTを活用した授業改善研修会を巡回実施するなど、各教科でICTを活用した授業展開が試みられた。</li> <li>・各授業担当で課題等は適宜出しながら、家庭学習が定着につながるほどではなかった。</li> <li>・教員間で生徒の学習状況が共有できなかった。</li> <li>・教え合いの中で言語活動が増えた。</li> <li>・授業やHR活動の中で、できるだけICTを使用して生徒の理解が深められた。また1・2年生は個人PCを積極的に使用するようになってきた。</li> <li>・年度内に2回の管理職による授業参観は実施できたが、教員同士の相互授業参観は思うようには活発にできなかった。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒、教職員ともに授業におけるICTの活用は着実に進んでいる。さらに、主体的・協働的な学びのツールとしての活用の向上が求められている。卒業後の進路希望を見据え、早期の学習習慣の定着を学年・学級経営、教科指導の柱とし、授業コンテンツや模試活用の検証を進めていく。</li> <li>・教員同士の相互授業参観は今年度も思うようには活発にできなかった。次年度以降も積極的に相互の授業参観を実施したり、研修会を実施したりするなどして「互いに学び合う教職員集団」を目指す。</li> <li>・先生方が効率的に課題を配布し、チェックしやすいようにICTをもっと活用する。生徒が積極的に課題を行い、知識・技能が定着するようにその都度適した課題を与える。</li> <li>・各教科で、もう少し生徒が学んだことを生かせる場面を設定する。</li> <li>・グループ学習等、意見交換や教え合いの場を積極的につくる。</li> <li>・教科や担当に関わらず、積極的にICT機器を使用する。(研修や教員間での情報共有)</li> <li>・Classiなどを活用し、生徒の家庭学習時間の記録をもとに生徒の学習時間の増加につながる課題の出し方や、授業の在り方を考え、実践していく。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>達成度</li> </ul> |
| 2        | 規範と相談による生徒指導体制の確立      | <ul style="list-style-type: none"> <li>全職員で認識を共有し、同一歩調で生徒指導に当たる。朝の登校指導や遅刻指導を通じて基本的な生活習慣の確立を目指す。</li> <li>年2回の学校生活調査を実施し、いじめ・不登校の未然防止、早期発見ができるよう取り組む。</li> <li>行事の運営が生徒主体で行われるよう、評議会との連携を図り、ホームルームと生徒会本部が意見交換を行いながら推進を進める。</li> <li>フードバンク、桃酒鑑賞マラソンへの継続的な協力など、多くの生徒が各種ボランティアに参加できる機会を提供する。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶・身だしなみ・登下校指導においては、全教職員で行う指導体制のもと成果を上げてきていたが、教職員の異動で教職員が数年度で入れ替わったことにより、校則に規定されていた以外のルールなどについて、これまでは共通理解を持ち進められていたことも、明文化しなければ共通理解が図れない場面があった。「基本的な生活習慣の確立」については、遅刻者数の推移や生徒の学校生活の様子などからみると、一部の生徒ではあるが確立できていない生徒がいる。校則については生徒の中には窮屈さを感じている者も若干いた。学校全体の規範意識を高める必要がある。</li> <li>・生徒理解については、学校全体で生徒に寄り添うことができていると感じている。特徴のある生徒については、担任、学年、保健とSGについて相談し、適切な対応ができるようになっている。いじめを許さない雰囲気づくりに努めた。特にSNSの利用については講演会を開催するなど重点的に指導した。また学校生活調査の実施により、いじめの早期発見、対応ができた。</li> <li>・学校改善アンケート(生徒)の評価で90%の生徒が生徒主体で学園祭などの行事の運営が行われていると回答している。生徒会本部役員もアンケートや評議会で見聞的に努め、また、スムーズな運営が行われるよう先を見通して行動していた。</li> <li>・桃酒鑑賞マラソンボランティアには40名、フードバンクの夏のボランティアには200名近くの生徒が参加した。ボランティア活動に興味を持っている生徒が多く、その他のボランティアにも多くの生徒が積極的に参加していた。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員が同一歩調で生徒指導に取り組みるように、校則や細かいルールについて共通理解が図られるよう周知徹底をしていき、そこから学校全体の規範意識の向上に向けていきたい。また、遅刻指導などははじめとし、教育活動全体で「基本的な生活習慣の確立」をさらに推進していきたい。</li> <li>・特別支援・いじめ防止委員会を年間で複数回実施することで、気になる生徒の情報、いじめに対する情報や対策について共有することができ、いじめの重大事案の発生はなかった。</li> <li>・本年度、発達に特徴がある生徒が数名いた。そのような生徒への対応等について専門家を講師に招いて研修ができるよう検討中である。</li> <li>・意見を言っても改善されないという気持ちを持つ生徒が持たないよう、評議会の運営や意見集約の方法を工夫し、生徒と意見交換をしながら学校運営や校則の見直し等ができる体制づくりを今後検討したい。</li> <li>・ボランティアの募集もコロナ前の状況に戻つつある。生徒が積極的に参加し、充実した活動ができるよう支援していきたい。ボランティアボードの設置など、情報が届きやすいよう工夫したい。</li> <li>・フードバンク等のボランティア活動に加え、コミュニケーションスクールとして、地域との交流を深めるため、生徒会として何ができるかを生徒会本部の生徒と共に考えていきたい。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>達成度</li> </ul> |
| 3        | 幸福追求を目的とするキャリア教育の推進    | <ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア形成を支援するために外部講師を活用した生き方講演会やキャリア基礎講座等を実施する。</li> <li>ホームルーム担任が生徒との懇談の中で振り返りや見直し、学習を支援し、三者懇談の際に保護者と内容の共有を図る。</li> <li>インターンシップを充実させるためビジネスマナー講座などを外部講師と連携し講演会を実施する。また進路講演会や分野別進路ガイダンス、進路説明会を行う。</li> <li>望ましい社会観・職業観形成のための地元の企業見学や職業人講話を実施する。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の職業選択につながるような体験的学習やインターンシップが効果的に実施されているかについて、学校改善アンケートの教職員評価で肯定的評価が前期より上昇し95.5%となった。生徒のキャリア発達につながるため、生き方講演会やインターンシップ事前指導としてのキャリア基礎講座、また職業別体験学習等を実施した。</li> <li>・総合的な探究の時間における進路学習・進路講演会が、生徒が進路を選択する力を養っているとの肯定的評価が学校改善アンケートにおいて90.5%となっている。社会人として必要なマナーや仕事に向かう姿勢を学ぶことを通じて、インターンシップを充実させるため、事前学習の徹底を図った。分野別進路説明会を通じて進路実現に向け進路選択の力を養った。</li> <li>・地域の職業人による分野別講話を通じて、地域の魅力を知るとともに、望ましい職業観・勤労観の醸成につなげた。</li> <li>・南アルプス市との包括連携協定により、山梨大学生命環境学部准教授菊地先生の指導を受けることが可能になり、地域研究に取り組んだ。また、エコパークや史跡でのフィールドワークを実施し、地域の特色を学び、地域の実情を認識し課題について考え、生徒のキャリア形成につなげた。</li> <li>・土曜講座や文壇セミナーの実施について肯定的評価が95%前後であるのに対し、模擬試験の効果的な実施については評価が下がっている。進路に応じた希望制の受験も一部取り入れつつ、学力向上に向けた指導を行った。</li> </ul>                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップの教育的効果が高い反面、運営していたものの人的資源の拡充は喫緊の課題である。分掌体制の見直しを進め持続可能な行事に改善する必要がある。</li> <li>・自身の在り方生き方を見つめキャリアビジョンの形成に向けた見直しを立てることができた。外部講師の講演後に振り返りもしっかり取り組ませることができた成果であると考え、次年度は事前学習を充実させることにより、講義より効果的なものにしていく必要がある。</li> <li>・三者懇談等により家庭との連携を深め生徒のキャリア発達を支援する体制を進めることができた。キャリアパスポートを有効活用し、生徒と保護者、教員が同一の視点でキャリア形成に取り組めるような手立てを考えたことが課題である。</li> <li>・2年生はインターンシップ及びその事前事後学習に意欲的に取り組む中で主体性や調整力を向上させた。1・2年生ともに分野別ガイダンスを通じて個に応じた知識獲得の場や体験の機会を設けることができ、進路意識を高めることができた。生徒の活動の様子や成果を保護者と共有し、家庭での支援を充実させる取組について考えていく必要がある。</li> <li>・地域の人材を活用した職業人講話を通じて、自身の将来の可能性を考える機会とし、望ましい職業観・勤労観を育成することができた。地元発の発掘に貢献する方策についてより具体的に考える機会とするための企業見学の実施が検討課題である。</li> <li>・1学年で実施している山梨大学との連携による地域研究や、地域を知る活動「フィールドイ」をさらに発展させ、白根高校の総合的な探究の時間の目玉とするため、2・3学年の探究学習にもつながるような企画を立案し実施していく。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>達成度</li> </ul> |
| 4        | 体育・文化活動による健康・安全教育の充実   | <ul style="list-style-type: none"> <li>備品の整備や外部指導者の招聘を行い、部活動環境の充実にも努める。</li> <li>学園祭では外部審査員を招聘し、本校の文化の醸成を図る。</li> <li>防災避難訓練を地域の方々と共に計画・実施し自衛隊・消防・公助について体験活動を通じて学ぶ機会を設ける。交通安全講話、道徳講話の実施。</li> <li>生徒が健康に生活するために参考になる校内の講演会を3年間を見直し、計画する。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部コーチを積極的に招き、顧問の負担軽減を図った。備品整備費を増額し、高額な備品は補助を行った。コロナの影響のため昨年度下がった新入生の部活動加入率も、本年度は多少盛り返した。しかし、生徒数減の影響が部員が確保できない部が増えている。部員確保や部活動の活性化のためにも、より効率的な活動へシフトしていく必要がある。</li> <li>・学園祭では1～3年生のステージ発表で外部審査員を招き、審査と講評を行ってもらった。2年ダンスでは事前指導を実施し、専門家からアドバイスをもらい発表内容を改善した。3年生は桃源文化ホールスタッフとのやり取りの中で運営面の課題を発見し、ステージを完成させた。</li> <li>・生徒対象の学校評価アンケートで、学校で災害が起った場合、どのような行動をとればよいか知っている生徒の割合が94%と非常に高かった。学校での防災避難訓練が効果的に実施できた。</li> <li>・バイク通学者対象安全運転講習会を年2回、交通安全講話、防犯講話等々を適宜実施し、安全な生活を送るために必要な資質・能力の育成に努めた。</li> <li>・外部講師や学校薬剤師に依頼し、講演会が実施できている。継続して事業を計画していきたい。(1年性感染症 3年薬物乱用)</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・備品整備費やユニフォーム代の増額、部費の見直し等を行い、有意義な活動ができるよう支援を継続したい。</li> <li>・生徒会本部を中心に部活動加入への啓発活動を行う。</li> <li>・外部コーチの積極的な招聘と顧問配置の工夫を行い職員の多忙化解消と負担の均等化を図りたい。</li> <li>・学園祭の外部指導者との交流は、生徒の学びとなった様子である。コミュニティースクールとして地域との繋がりを重視し、今後も行事の運営を行ってきたい。</li> <li>・防災避難訓練や各種講話が生徒の防災、安全に対する意識向上に効果的な役割になっているように、実施方法を工夫していきたい。</li> <li>・生涯にわたり健康に生活できるよう、そのきっかけ作りのために引き続き講演会等を計画していく。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>達成度</li> </ul> |

| 学校関係者評価         |  |
|-----------------|--|
| 実施日 (令和6年2月14日) |  |
| 評価              | 意見・要望等   |
| 4               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動・学校行事・登下校等、学習以外のことで時間がとられる中、生徒はよく努力をしていると感じる。</li> <li>・先生方が多忙を極める中、改善策に示されている取り組みを行い、生徒の学力向上に向けた研鑽を積まれていることに敬意を表する。</li> <li>・生徒の家庭学習の取り組みについては、昨年同様、肯定的評価が低く課題である。課題を解決する具体的な改善方法が求められる。生徒へのアプローチについて、具体策について検討し実践してほしい。</li> <li>・教員同士の相互授業参観については、今年度も活発にできなかったとの記述があるが、必要な取り組みであれば具体的なスケジュールを立案し、実施してほしい。</li> <li>・1年生の総合的な探究の時間で山梨大学と連携して行った学校の所在地である南アルプス市の観光について考える取り組みについては、グループでの活動が活発に行われ、みんなで話し合い、議論しながら進められ、生徒の成長につながったと感じることができた。次年度も質の高い取り組みを継続してほしい。</li> <li>・対面形式で生徒同士が教え合うことで、生徒の向学心を醸成し、自己学習(家庭学習)の習慣化に一定の効果があると考えられる。より一層、生徒自ら学ぶきっかけ、仕組みづくりをお願いしたい。</li> <li>・1年生の探究の時間の発表は、地域のことをより深く学べるなど私たちが普段知らないことも学ぶことができ、生徒も見る、調べる、考えるなどそれぞれ役立つものであると感じた。引き続き、山梨大や南アルプス市と連携を図りながら進めていただきたい。</li> <li>・生徒の普段の学習については、時間の確保や意識の向上は難しいものがあるが、それぞれの目標に合わせて、ICTや模試の活用を行いながら、魅力のある授業等も必要があると感じる。</li> <li>・大学や社会では、集団討論やグループ討論が必要となってきており、机上での授業や勉強だけではなく、意見交換等を活発に行えるような学習も必要であると感じる。今後、新たな方法等で授業への導入等も検討したらどうか。</li> <li>・大量の課題配付に順応できない生徒が出てしまい、生徒の評価を大幅に下げている高校がある。家庭学習習慣の定着にはある程度時間がかかると思うので、学校の思いだけで進めず生徒の側に入ったじっくりとした取組をしていただけたらありがたい。</li> <li>・家庭学習課題を準備していただけたらありがたいのだが、出した以上は生徒がやってくれたいと思える処理をお願いしたい。時と場合にもよるが、集めるだけだったり、解答を配付するだけだったりすると、生徒の努力が報わらず、学習へのモチベーションが低下してしまう。</li> <li>・授業におけるICTの活用は着実に進んでいるが、課題としている予習や復習、特に家庭学習の習慣化などに、ICTを効果的に活用して解決策を模索してほしい。</li> </ul> |
| 3               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・改善策にある「生徒をまきこんだルールの見直し」は素晴らしいと思う。「細かいルールの徹底」により先生方を疲弊させるのではないかと心配している。先生方と生徒信頼関係が白根高校の最も誇るべきことの一つだと感じている。</li> <li>・生徒の規範意識の低下が気になることである。また、校則について窮屈に感じている生徒が若干いるとの評価であるが、その原因を分析し、適切な対応をしてほしい。</li> <li>・教育活動報告の中で、問題行動事案が昨年度に比べ、増加したとの報告があった。コロナが5類に移行され、活動が活発になったことが要因の一つと考えられるが、些細なことでも大きな事件、事故に発展し、人生を棒に振ってしまうこともあるため、警察官等の関係機関の講師を招いた講話を通じて生徒、保護者の意識向上に努めてほしい。</li> <li>・いじめの対応については、講習会等を通じ、生徒の意識も高まり、重大な事案の発生がなかったことは評価できる。次年度も継続して、人権教育の推進を図ってほしい。</li> <li>・学校行事においては、生徒が主体的に取り組み生徒の成長に繋がったと感じる。</li> <li>・ボランティア活動は、積極的に展開され、社会活動を学ぶ場として有効である。共助の精神を養うことはとても大切であるため、次年度も積極的な活動を展開してほしい。</li> <li>・「桃源郷マラソンボランティア」「フードバンクの夏のボランティア」などの社会貢献活動に多数の生徒が参加するなど、生徒と一般社会が関わる機会が多く提供されている様子が見える。今後も継続して、生徒の社会奉仕の意を涵養し、社会との接点をもつことができるよう、きっかけ、仕組みづくりをお願いしたい。</li> <li>・学校のルールについては、昔からのものも多く、時代に即した見直しも必要であると思う。また、生徒指導面における問題行動の件数の増加も他にはないところであるが、ルールで縛り付けると逆効果の面もあることから教職員で意見交換等を頻繁に行いながら、対応をしていただきたい。</li> <li>・ボランティアについてはフードバンクや、マラソンなど積極的に進めていることは継続していただきたいが、身近な他地域との交流や、災害派遣などの経験を積むことも今後は市などと連携を図りながらより一層進めていただきたい。</li> <li>・地域に根ざした活動であり、全教職員体制での挨拶・身だしなみ・登下校指導により成果を上げ、地域に愛される高校となっているのは素晴らしい。異動により教職員が入れ替わっていくが、共通理解での取組を今後もお願いしたい。</li> <li>・現状の学校生活の中で、生徒や教員、保護者等のコミュニケーションを図ることは大変難しい環境にあるものの、様々な機会を通じて生徒とのコミュニケーションを図り、信頼関係を築くための環境づくりを進めて欲しい。</li> </ul>                   |
| 4               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生全員によるインターンシップは、県内で山梨高校と白根高校だけの取り組みであり、特色のある活動として評価できる。将来、生徒自身の地元で働き、地域に貢献できる人材を育成するため、小規模校であることを強みと捉え、地域協働の教育を目指し、白根高校の強みをアピールしてほしい。</li> <li>・インターンシップは、教職員の負担が課題であるが、教育効果の高い取り組みであり、管理職を中心に業務を分担する等の事業実施体制の見直しを図ってほしい。</li> <li>・今年度4月に学校の所在地である南アルプス市と包括連携協定を締結し、地域との連携が強化され、総合的な探究の時間を活用し、地域を知る、学ぶといった取り組みが実践できたことは評価できる。総合的な探究の時間のカリキュラムに相応しい内容であったと感じた。</li> <li>・地域の自然環境、地域資源を学び、郷土を愛する心を醸成されることにより、将来、地元で働き、地元で貢献できる人材を育成することを念頭に継続して取り組んでほしい。</li> <li>・受動的に参加しがちである講演会、講話等に留まらず、能動的な取組みが求められるインターンシップ、事前・事後学習を充実させるなど、進路や取組に対して、生徒が自分ごととして向き合う様子が見える。今後も継続して、生徒が進路や取組を自分事として向き合うことができるきっかけ、仕組みづくりをお願いしたい。</li> <li>・インターンシップは社会に出るためにも必要なことではあるが、金銭でも出たが、それに伴う教職員不足はかなりの深刻であると思われる。それが原因かは定かではないが、生徒のアンケート結果の4、5の項目に回答している生徒がいる。一度で全生徒を行うのではなく、時期の分散化や、SIに回答した生徒たちの意見も聞きながら、引き続きインターンシップの在り方、進め方を検討していただきたい。</li> <li>・探究の時間については、今回の修学旅行企画は、南アルプス市を再度知る意味で非常に興味深いものがあったが、今後は、企画立案をするだけでなく、社会人としての基礎を身につけるためにも重要な取り組みである。今後も積極的な活動を期待する。</li> <li>・本校のインターンシップ制度は、取組を維持していくためには様々な課題があるものの、生徒のキャリア形成や地域創生の課題解決につながるたいへん重要な取り組みであることにも他校にない本校の付加価値であることから、行政や地域の商工関連団体との連携や支援を受けながら、これからも続けて欲しい。</li> <li>・インターンシップの経験は生徒のキャリアの発達につながっている。また白根高校と地域の信頼関係の醸成にもつながっている。通常の学校運営でも多忙な先生方に更なる負担になっているのでは心配している。</li> </ul>  |
| 4               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の働き方改革の一環として部活動における外部指導者の招へいを積極的に進め、成果を得ていると感じる。</li> <li>・部活動は、社会人としての基礎を身につけるにも重要な取り組みである。今後も積極的な活動を期待する。</li> <li>・能登半島で起きた地震を教訓に、形式的な訓練ではなく、どのような備え、行動が必要かグループワーク等を通じて話し合える場を設けてほしい。</li> <li>・外部の専門家、有識者を招聘し、体育・文化活動の充実と、教職員の負担軽減が図れる。今後も、専門家、有識者を積極的に招聘し、体育・文化活動の充実と、教職員の負担軽減をお願いしたい。</li> <li>・外部コーチの招へいについては中学校でも部活動の地域移行が行われる中、スポーツ界全体にとっての問題であると思うので、市の体育協会などとも連携を図り、登録されている経験者等の力を借りながら、教職員の負担軽減を図っていくことも必要であると思う。</li> <li>・女子生徒を対象とした部活動の少なさも問題であることから、女子生徒の意見を聞きながら、必要な部活の設立等も必要であると考えられる。</li> <li>・部活動における備品の整備や充実も、生徒が活動するうえで必要なことであるので、学校でも活動支援を願う。</li> <li>・白根高は県立の地域に根ざした学校であり、私立校ではない。学連協の教育活動報告では、優秀な成績を修めた個人やチームだけでなく、様々な結果を出していないが地道にがんばっている、努力している部活動等の紹介もしていただきたい。結果でなく地道さや応援できる学連協に取組んで欲しい。</li> <li>・部活や学園祭・防災教育・キャリア教育などすべての学校生活が、生徒を人として成長させていると感じている。部活動など先生方の負担を心配である。</li> </ul>  |

(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的な対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。